

2026年  
CTG  
道

建交労道本部夏季闘争速報

No. 10/2026年8月26日

〒060-0909 札幌市東区北9条  
東1丁目北海道労働センター2F  
TEL. 011(711)7377  
FAX. 011(711)7388  
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

## 道本部労災職業病部会第24回総会

# 1年間の新規認定121件

## 「健康相談会」に122人が訪れる

道本部労災職業病部会は8月21日に札幌で第24回定期総会を開き、8支部の代議員・部会役員など26人（委任状ふくむ）が参加して1年間のとりくみを振り返るとともに、新年度の活動方針を決定しました。総会では深浦義彦部会長から、近く道南勤医協の畑中恒人先生が50年間の活動をまとめた本を出版する予定であることが報告され、道本部の森国教委員長が「高市内閣は労働時間規制の緩和や裁量労働制の拡大など労働者のいのちと健康に対する攻撃を強めている。仲間を増やして、こうした攻撃を打ち破ろう」とあいさつしました。部会の福井博事務局長が議案を提案し、1年間で121件の新規認定を勝ちとってきたことや、昨年の総会や幹事会で意思統一した「健康相談会」は全道で延べ21日間・37会場で開いて122人が相談に訪れたこと、トンネルじん肺根絶第8陣訴訟で道内の原告10人全員が提訴から1年余りで和解できたこと、遺族補償の不支給決定取り消しを求める形石訴訟にとりくんだ意義などを報告しました。新年度も「100件の新規認定」「50人の要療養組合員の拡大」などをめざしてとりくむことを決め、深浦義彦部会長（函館）、中井利男副部会長（足寄）、前田日出之副部会長（札幌労災）、福井博事務局長（十勝建設）などを再選しました。

## 矢臼別「平和盆踊り」に2人が参加

8月8日、別海町の川瀬牧場で開催された第61回「矢臼別平和盆踊り」に北海道鉄道本部から2人（竹田委員長と越後さん）が参加しました。日本一広大な自衛隊・矢臼別演習場のど真ん中で反戦・平和の旗を掲げ続けた川瀬汎二さんのたたかいを引き継いで、地元の仲間たちが中心となって今年も平和を追求する決意を固めました。なお、竹田委員長は前日から釧路入りして釧路地区に居住する組合員と懇談し、釧網線で運行されているノロッコ号を視察して無人駅の不便さを実感してきました。釧網線での体験は、黄色線区問題などJR北海道との団交で改善すべき課題として貴重なものとなりました。

【北海道鉄道本部 竹田吉宏】

## JR北海道が第1四半期の収支報告

8月17日、JR北海道グループの2026年度第1四半期の収支状況とKPI検証結果が報告されて、北海道鉄道本部の竹田委員長と最上書記長が出席し意見交換をしました。2026年度収支状況は昨年度に比して減少しているものの黒字は維持されており、運輸部門では千歳線が依然として好調に推移し、バスの運賃改定もあって増加しています。経営安定基金運用益を補完する政府による特別債権受取利息収入がゼロとなった点について、市場金利の上昇はあるものの経営安定基金運用益が当初計画通りとならない低利息は続いており「ゼロとする政府の施策に労使が声をあげ、変えていくことが必要だ」と建交労の考えを示しました。また、KPIの検証結果については、「えきねっと」の取扱収入の反映が精算システムの問題で遅れる点について改善の検討と、社員の奮闘の伝え方について共通する思いを持っていると受け止めました。開発事業収入のJRタワーテナントの売り上げが天候に大きく影響されていることや免税販売額が前年同期の125.3%に上っておりインバウンド集客の重要性を認識するものでした。

【北海道鉄道本部 竹田吉宏】